

雑誌『會計』の本会への移管と 機関誌としての継承に当たって

日本会計研究学会会長 青山学院大学大学院教授

町田 祥弘

雑誌『會計』は、2024年8月開催の日本会計研究学会（本会）の総会決議を経て、『会計
プロGRESS』と並ぶ新たな本会の機関誌となった。その後、発行を担当していただく出版社
の選定を経て、改めて従来、『會計』を刊行されてきた森山書店にご担当いただくこととな
り、諸事取り決めの後、本号の発刊に至ったのである。

本号は、第208巻第1号である。決して、本会の機関誌としての第1号ではない。本会の
ウェブサイトには雑誌『會計』の「沿革」として紹介されているように、1917年（大正6年）
4月に発刊されて以来、明治大学出版部、同文館、森山書店と引き継がれ、第二次世界大戦
による一時的な休刊の期間はあったにしても、2025年3月まで脈々と刊行されてきた。『會
計』は、英国の *Accountancy* 誌、米国の *Journal of Accountancy* 誌に次ぐ世界で3番目に
歴史のある会計専門雑誌である。さらには、『會計』が本会の準機関誌として位置づけられ
てきたことを考えれば、米国会計学会の *The Accounting Review* 誌よりも早く刊行された
世界最古の学会機関誌ともいえる。

私たちは、『會計』が2025年3月に休刊するという報せを受けた際に、方法はともかく
も、本会においてその発行を受け継ぐことが必要と考えた。それは単に『會計』が古くから
あるというだけではなく、準機関誌としての『會計』の歩みは本会の活動と重なるものであ
るからである。古い話になるが、私の世代ぐらいまでは、大学院生のときには『會計』に二
段組で原稿を掲載していただくことを目標とし、研究者となってからは学会の自由論題報告
での報告を行って『『會計』にご執筆なさいませんか』と声をかけていただくことに期待し、
そしていつかは研究大会や部会の統一論題に登壇して『會計』に原稿を掲載していただくこ
とを目標としていたものである。私に限らず、常に本会の多くの会員の研究活動とともに
あった『會計』を継続して刊行し、今後も本会の研究活動の成果を公表する場として次世代
に引き継いでいくことができることは、何よりの喜びである。さらに、森山書店のご厚意を

得て、雑誌『會計』の既刊の号についても、本号の刊行にタイミングを合わせて、本会の会員向けウェブサイトにおいて順次公開し、会員の研究活動に資するよう準備を進めている。

移管後の『會計』は、当面、年2回の発行とし、研究大会や地域部会における統一論題報告等に関する論稿を掲載することとしている。また、その財政的な手当ては賛助会員からの会費に大きく依存しているが、賛助会員の皆さんからは、『會計』を引き継ぐことの意義、及び本会の研究活動にとっての重要性について、何の異論もなくご理解を賜ることができた。賛助会員はじめ多くの方々の支援の下、機関誌『會計』を今後どのように発展させていくかは、私たちの大きな課題であろう。

最後に、本会の準機関誌たる『會計』をこれまで守り抜いてくださった森山書店の菅田直文氏に本会を代表して深甚より感謝申し上げます。併せて、ここで改めて、『會計』の伝統とこれまで執筆されてきた方々に恥じぬよう、本会の正式な機関誌として、『會計』を継承していくことをお誓い申し上げます。